人々が織りなす　元気で快適な　活力あるまち　広報2007 5
さつま

伝統を受け継ぐ
中津川北方町俵踊り

4月19日，中津川北方町の清六神祭で，中津川小学校体育館の落成式で踊られて以来，6年ぶりに俵踊りが披露されました。

町無形民俗文化財に指定されているこの踊りは，中津川北方町に伝承され，これまで婦人部が保存し，女性だけによる踊りでしたが，広く文化を伝承するために，青壮年で構成する「北方町清友会」が婦人部から踊りの指導を受け，今回初めて夫婦５組を含む男性１２人，女性９人が踊りを披露しました。きっかけは，小学校低学年から高学年生まで，みんなで一緒に踊れる郷土芸能を教えて欲しいと中津川小学校からの依頼で始まったものです。婦人部から踊りを学んだ清友会は，中津川小学校児童へ踊りを伝承し，９月に行われる大石神社での金吾様祭りでは，児童が１５年ぶりに披露される予定です。

ロ木綿の着物に絣もんぺ，白鉢巻きを締めた踊り子は，三味線と太鼓のリズムに合わせ，唄いながら手踊りし，円陣を組み，長さ３０㎝，重さ３００ｇほどの俵を一俵ずつ手渡していきます。昔は神社などの祭典で，催し物として勘進相撲が行われ，寄進された金品や米俵などを土俵上に積み上げて観衆に披露し，謝礼の意を表して踊られました。また，当時の寄進は大部分が米であったため，化粧まわしを締めた関取が相撲甚句を唄いながら円陣をつくって踊り，土俵踊りが終わると，飾ってあった米俵を次々に後ろに手渡して土俵の外に出したと言われています。俵踊りは，この様子を踊りにしたものです。